ラピダス半導体量産に備え

千歳市美々の下水道施設完成

岩田地崎JVなど施工者が式典



全11工区で圧送管9340m

千歳市が美々地区を中心に整備を進めていた下水道管渠など関連工事の施工者は25日、現地で完成記念式典を開いた。関係者90人が参集。ラピダス（本社・東京）が新築した次世代半導体製造工場の下水に対応するインフラの誕生を祝った。

全11工区（総延長9340㍍）に下水圧送管を新設した。美々758の225に汚水中継ポンプ場、清流1丁目1の7に貯水槽をそれぞれ新築。2027年度に予定する次世代半導体の量産に備える。

式典は岩田地崎建設・中山建設・協栄土建・金田一建設・ドーコン共同体（美々地区ほか下水道管渠整備）、中山建設・金田一建設共同体（美々汚水中継ポンプ場新設土木建築）、丹波組・ヒロトミ建設共同体（浄化センター貯留槽新設）が主催した。

横田隆一千歳市長は「次世代半導体の量産には水インフラの整備は不可欠。将来を見据えてしっかり維持管理に取り組む」と話した。

ラピダスの清水敦男代表取締役専務執行役員は「施工者の協力に感謝したい。量産に向けて一歩ずつ進んでいる」と意気込んだ。

式典後、取材に応じた岩田地崎建設の岩田幸治社長は「現場の工夫と努力が実を結んだ。千歳市の発展に貢献できればうれしい」と述べた。

関係者が鏡開きで祝った